



大阪北ブロック 阪神支部

(株)珍樹園 加藤 雅也

阪神支部は西淀川区、此花区、福島区の3区からなり、市内支部の中でも大きな面積を占めます。今回は福島区の「食」についてご紹介します。

まずは南部安治川沿いに位置する1931年開設の大阪市中央卸売市場本場(以下中央市場)です。中央市場は東京の太田市場、現在話題の築地市場に次ぐ取扱高を誇ります。約18万㎡に及ぶ広大な敷地での取扱品目は青果(野菜、果実等)、水産物(生鮮水産物や加工品等)、加工食料品(漬物、味噌、乾物等)と多岐にわたり「天下の台所」大阪の食文化を長く支えてきました。また隣接する野田南緑道にて3、5、9、11月の年4回、中央市場内仲卸の阪神支部会員が中心となって食育をテーマとした『ざこばの朝市』を開催しています。



一方こちらは歴史が新しいですがJR福島駅、新福島駅を中心とした飲食店街エリアです。以前はそれほどでもなかったのですが、今ではこんなに狭い路地の奥までというようなところに和食、フレンチ、イタリアン、小さな飲食店が軒を連ね一大飲食店街になっています。なかには超有名店もあって行列ができていて、予約がとれないなど今でははるか遠方からお客さんが訪れるようになりました。こちらは梅田からひと駅、ぜひお越しください。



築地に次ぐ取引高とか。福島中央市場では同友会「市場例会」を昼に開催して、懇親会はマグロに舌鼓など、羨ましいお話があります。船交通の便が良かったところから栄えた食文化、やはり大阪は食い倒れですね。(編集 西岡)